

らくぶん 楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!



◎主催 NPO特定非営利活動法人
博多の風

◎特別協賛 NTT
docomo

◎協力 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社
RKB毎日放送(株)、日本電気(株)

◎選考委員 豊田 侃也氏(博多祇園山笠振興会 会長)
永守 良孝氏(RKB毎日放送 相談役)
沢田 幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
大庭 宗一 (NPO博多の風 理事長)

◎協賛 西部ガス(株)、JA福岡市、西日本鉄道(株) [順不同]

◎後援 福岡市、福岡市教育委員会
(一社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州旅客鉄道(株)
(株)九電工、コカ・コーラウエスト(株)、(株)西日本シティ銀行
NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行、九州電力(株) [順不同]

第49号
平成30年11月発行

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
<http://hakanokaze.jp>

平成29年

- 4月 第38回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:平井 彰(NPO博多の風副理事長・事務局長)
(一社 九州経済連合会 常務理事 事務局長)
- 6月 第16回 追山コース探訪 開催
第17回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第17回 楽文コンテスト表彰式 開催

平成30年

- 5月 第39回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:前田 恒明(住友商事九州株式会社 取締役社長)
- 6月 第17回 追山コース探訪 開催
第18回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第18回 楽文コンテスト表彰式 開催

NPO博多の風の歩み

■設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一

■NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

■啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(楽文コンテスト)開催

■地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動グリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)

■活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催

■協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL <http://hakanokaze.jp>

博多祇園山笠振興会賞

ぼくが好きなこと

●博多小学校2年

坂丸 琉晟

ぼくが好きなことは、はか多
ぎおん山かさです。じぶんが
でてるながれは、東ながれで
す。東ながれは、くしだいいり
が早くて、ことしくしだいいり
で一ばんでした。ほかのなが
れは、はっぴがいろんなしゆ
るいがあるけれど、東ながれ
は、白のはっぴに東の文字が
かかれたもののしかありませ
ん。今年の人形は、てっぼう
をもった女の人でした。むか
し男の人がたたかに行って
いる間に女の人がかわりにい
えをまもったというお話がモ
デルになっていそうです。
ぼくは、男の人がるすの間、
てっぼうをもっていえをま
もってすごいとおもいまし
た。

ぼくは、0さいから山かさ
に、さんかしています。今年
もぜんぶの日にちにでまし
た。七月十一日のあさは、子
どももだい上がりができま
す。ぼくは、わくわくしてあ

わたしのお母さん

●入部小学校3年

中越 智香

わたしはお母さんによく、
おこられています。とてもこ
わいです。テストで百点を
とつてきても1回見たらすぐ
にポイツとすてます。でも、
百点じゃない時はわざとのこ
したりかべにはったりしま
す。こわいだけじゃなくてす
ごくいいわんです。

3年前に妹が生まれてから
はもっとこわくなりました。
もうおにみたいです。

えていきたいと思います。

これから経験するであろ
う、未知なる「達成感たち」
との出会いが楽しみです。

君が大好きなこと

●長丘中学校1年

後藤 海成

「機械や物を分解すること。」
これが僕の好きなことであ
る。特にドライバーなどの工
具を使って分解していると、
夢中になっていることがあ
る。客観的に考えてみると、
少し変なのかもしれないが、
分解しているときはとても集
中する。

なぜ分解するのが好きなの
だろうか。機械の構造を知り、
中身がどうなっているのか、
そのなぞを知っていくのが楽
しく、面白いのだ。だから、
分解した後に元に戻せない
意味はない。元に戻せない
その原因を必ず追究している
自分がいる。

何がきっかけで「分解好き」
になったのだろう。改めて思
い返してみると、二つのこと

NPO博多の風賞

- | | | |
|--------------|-----------|--------|
| ・「きみが大ききなこと」 | 杵岐小学校3年 | 武田 穂乃花 |
| ・「ぼくの大切な物」 | 博多小学校5年 | 和久井 宙 |
| ・「私の好きなこと」 | 鳥飼小学校6年 | 山本 結月 |
| ・「私の心の支え」 | 香椎第三中学校2年 | 斎藤 芽生 |
| ・「私の宝」 | 青葉中学校2年 | 原田 駿太郎 |

NEC賞

- | | | |
|--------------|----------|--------|
| ・「君が大好きな事」 | 小笹小学校3年 | 犬童 康介 |
| ・「ぼくが大好きなこと」 | 高取小学校5年 | 岡本 朔太郎 |
| ・「大事な仲間」 | 香椎小学校6年 | 与古光 凜 |
| ・「私の好きなもの」 | 和白丘中学校2年 | 菊池 涼風 |
| ・「大自然に触れる」 | 青葉中学校3年 | 久保 飛勇吾 |

RKB毎日放送賞

- | | | |
|---------------|---------|-------|
| ・「ぼくとぱちぱち」 | 箱崎小学校4年 | 鷹巢 瑛斗 |
| ・「ぼくが大好きな人」 | 赤坂小学校6年 | 野村 悠 |
| ・「教える」 | 春吉中学校1年 | 伊藤 美咲 |
| ・「笑った顔を見るために」 | 長丘中学校2年 | 佐藤 夢乃 |
| ・「大好きな憧れの人」 | 青葉中学校3年 | 福本 美咲 |

NTTドコモ賞

- | | | |
|----------------|----------|--------|
| ・「おかあさんおこらないで」 | 杵岐小学校1年 | 鍛永 真之 |
| ・「ぼくの大好きな事」 | 箱崎小学校4年 | 長島 正和 |
| ・「私のバレエ愛」 | 和白丘中学校1年 | 荊原 なつ希 |
| ・「水泳」 | 長丘中学校2年 | 石井 日菜 |
| ・「大好きなこと」 | 青葉中学校2年 | 浦川 凜 |

毎日新聞社賞

- | | | |
|----------------|-----------|-------|
| ・「わたしがだいすきなこと」 | 小田部小学校1年 | 白水 紗希 |
| ・「ラグビー大すき」 | 小笹小学校3年 | 高田 悠真 |
| ・「真っ白な紙に」 | 東箱崎小学校6年 | 小樋 和紗 |
| ・「私が好きなもの」 | 和白丘中学校1年 | 高鍋 佳代 |
| ・「私の好きなこと」 | 香椎第三中学校2年 | 古賀 璃音 |

博多祇園山笠振興会賞

- | | | |
|---------------|---------|-------|
| ・「ぼくがすきなこと」 | 博多小学校2年 | 坂丸 琉晟 |
| ・「わたしのお母さん」 | 入部小学校3年 | 中越 智香 |
| ・「達成感」 | 春吉中学校1年 | 伊賀 愛奈 |
| ・「君が大好きなこと」 | 長丘中学校1年 | 後藤 海成 |
| ・「私 が 大好きなこと」 | 高取中学校2年 | 大場 祐依 |

入賞者

発表！ 第18回楽文コンテスト

ある日お母さんに

「なんで妹ばっかり？」

「いつもわたしばっかりが
がまんしてるやん。」

と言つてしまいました。そし
たらお母さんがかなしそうな
顔で

「ごめんね。」

と言いました。

「二人とも同じくらい大好
きなだけだね。」

とも言いました。わたしはな
んだかなしくなりました。
ねる前に

「さつきはごめんなさい」

というといいとわらつてく
れました。わたしは何でおこ
られているのか考えました。

①あいさつを大きな声でしな
い時。②テストでくだらない
まちがいをした時。③時間を
守らない時。④やくそくを守
らない時。⑤人にいじわるを
した時。です。わたしは、お
母さんがわたしのために家の
外でこまらないうにいつて
いるのかなあと思いました。

こわいけどいつもみのまわ
りのことをやっていてもらっ
ているし、ごはんも作ってく
れます。わたしだけに本やお
もちやなど買ってくれたり、
二人だけでランチしたりえい
画につれていってくれたりし
ます。お母さんは、こわいし

いじわるだけどもやさし
い所もいっぱいあるなと思
いました。とってもこわいけ
どわたしの気持ちにくらべ
ると大好きな気持ちはこわいの
気持ちよりもずっとずっと大
きいです。すぐ口でありがと
うとか大好きとははずかし
て言えないけど心の中ではい
つも思っています。だからい
つかは自分の口で言葉にして
つたえたいです。

お母さんいつもありがと
う。まだわたしは9才、妹は
3才なのでまだまだこれから
長いけどおせわよろしくおね
がいします。あと、もう少し
やさしめにおこつてもらうと
うれしいです。

達成感

●春吉中学校1年

伊賀 愛奈

私は「身体を動かす」こと
が好きです。「好き」と言っ
ても、思いたすと「きつい」
ことの方が多いですが、うま
くいった時の「達成感」は今
でも忘れられません。

小学校2年生からバスケッ

トボールを始めました。練習

はきつく、とてもハードでし
た。逃げ出したくなつた時も
数多くあります。しかし、き
つい練習を繰り返し、試合で
シュートを打つて得点になつ
た時はとても嬉しく、「達成
感」がありました。しかし、
一方で「色々なことをやって
みたい」「違う運動もしてみ
たい」という想いも持つてい
ました。悩んだ結果、中学校
に入学し、ソフトテニス部に
入部しました。ソフトテニス
はバスケットボールとは違う
身体動きが必要であり、
思った以上に練習はハードで
す。しかし、練習を重ね、試
合で相手のコートにうまく打
てた時、先生や先輩からほめ
ていただき、「次も頑張ろう」
「もつと上手になろう」とや
る気が出ます。今はソフトテ
ニスを始めてまだ4ヶ月程度、
まだまだ未熟ですが、練習を
頑張つて、いつか福岡市大会
に出場することが目標です。

運動することで、身体を鍛
えることはもちろん、メンタ
ル面も鍛えることができ、今
後様々な場面で困難な状況に
遭遇すると思いますが、それ
に対し「頑張れる」「打ち克つ」
「乗り越える」ことができる
のでは、と思います。

わたしがだいすきなこと

●小田部小学校1年

白^{シラミズ}水^{ミズ} 紗^サ希^キ

わたしは、もじをよむことがだいすきです。もじをみつけると、すぐにこえにだしてよんでしまいます。ほんをよむことは、もちろんだいすきで、えいがのちらしやおもちやのカタログをよむこともだいすきです。おもちやのとりあつかいせつめいしよをよむこともすきなで、しゅうちゅうしてよんでいると、おかあさんに「おもちやであそばないの？」と、きかれることもよくあります。

なつやすみになって、おかあさんが「しんぶんのなかに、こどもがよめるページがあるよ。」と、おしえてくれました。それから、しんぶんのこどものページをよむことが、わたしのまいにちのたのしみになりました。でも、しんぶんをよんでいると、わたしがよめないかんじやえいごがでてきます。

だから、わたしはこれからか

方が無く、たくさんたくさん泣きました。悲しいとき、つらい時の心の支えでもあった親友を失ってしまう自分は、これからどうなってしまうのだろうと、不安にもなりました。けれども、最後の日まで今まで以上におしゃべりをしました。とても楽しく幸せでした。

二人が引つ越してからは、よりいっそう「友達」という存在を大切にしようと思い、仲の良い友達の他にも、あまり話したことの無い人に自分から話しかけるようになりました。

おしゃべりをする時間も増え、親友を失った悲しみを乗り越えることができました。私にはやはり、友達とおしゃべりすることが必要なんだと改めて感じました。

私は、ある言葉を大切にしています。それは「絆」です。なぜなら、親友や友達との絆をとぎれさせたくないからです。たった一度しかない人生を、多くの人とかわって楽しく過ごしていきたいと考えています。そのためにも、人との出会いを大切に、今、身近な友達とも大好きなおしゃべりをしていきたいです。

気づくと、「原稿用紙二枚」というものが、果てしなく少なくて感じられた。

また、私は、自分の書いた作文に納得できなければ、すぐに書き直した。友達や先生に感心してもらいたい、ということもあったが、その理由の大半は、自分で満足したいから、というものだった。より良い表現が見つければ、そのように書き直すし、つけ加えたいことがあれば、うまくつなげた。時には、思い通りに表現できない自分にいら立ちながら、新しい紙に全て書き直すことだってあった。とにかく、「まあいいか」というように終わらせることは絶対に無かった。「作文」が、とても大切なものだからだ。

白い原稿用紙と、えんぴつ、消しゴム、そして人。これがそろえば、ただの白い紙は、意味のあるものになる。意見文、説明文、感想文、物語文。これらが、大きな意味を持ち、多くの人の心を動かすこともある。

私にとって作文は、自分の存在を示すものだと思う。時が過ぎるにつれ、自分の思ったことや感じたことは忘れてしまう。しかし、文に残せば、それは、消えない。捨てない

事に対して、全力で打ち込めると思う。

「分解」の本質は「ものごとのしくみを知る」ことである。その本質は今後、僕がやりたいと思える職業を見つけていく上での要素になっていくだろう。

私が大好きなこと

●高取中学校2年

大^{オホ}場^バ 祐^{ユウ}依^イ

私は、友達とおしゃべりすることが大好きです。ありきたりな事だと思うかもしれませんが、あることが起きてから、普段何気ない友達との会話でさえも、幸せだなと感じるようになりました。

私には、お互いに心の底から親友と呼べる人が二人います。その二人と出会ったのは、小学校の入学式です。私が通っていた幼稚園は、小学校の校区から離れたところにあるので、同じ幼稚園出身の人はたった一人しかいませんでした。周りほぼ全員、見慣れない顔ばかりだったので、教室の自分の席に座ってから

んじとえいごのべんきようががんばって、もじをたくさんよめるようになりましたです。

ラグビー大すき

●小笹小学校3年

高^{タカ}田^タ 悠^{ユウ}真^マ

ぼくは小学校一年生の三期にラグビーを始めました。さいしよは友だちがいなかったし、ラグビーもうまくなかったので、すきではなかったです。だけど、だんだん友だちがふえてきたし、うまくなかったラグビーがうまくなけるようになってきました。前は出たくなかったしあいま今は自分から出たいと言ったりします。

ラグビーのすきな所楽しい所は、タックルやトライができた時に、みんなが声をかけてくれるのでうれしい気持ちになります。フオワードの時、オーバーのおし合いにかかった時もうれしいです。

ラグビーをしていてきつい時もあります。しあいの前半にたくさん走って後半体力がなくなります。練習で何ども

短きよりを走る時もつかれます。コーチから、きつい時に本気で走れる子が強い子と言われたので、それを目ひようにしてがんばっています。

ぼくが入っているラグビークラブでは、毎年夏に二はく三日の合宿があります。合宿は一日中練習をします。そしてみんなでおふろに入ります。夜ごはんを食べた後、三年生より上はべんきようして、二年生より下は遊んでいます。その後、きもだめしや虫とりなどをして十時にねます。

合宿では、自分のことは全部自分ですることになってますが、六年生は下きゅう生のめんどうも見なくてはいけません。去年の話ですが、ぼくはお父さんお母さんどちらもさんかしなかったのですが、六年生が声をかけてくれたのでうれしかったし、ふあんな気持ちもなくなりました。自分が六年生になったら、そういうふうな人になりたいです。

今ぼくががんばっていることは、しあいでタックル十回トライ十回ができるようになること、スピードをおとさないで走ること、しあいをする前に練習したせいかを出す、ということです。そして、相手チームも自分のチームもな

かよくラグビーのしあいができるようにしたいです。コーチから言われたことができるようにど力して、これからもつとがんばりたいと思います。

真っ白な紙に

●東箱崎小学校6年

小^コ樋^ヒ 和^{カズサ}紗^サ

私の好きなこと。それは、これ、「作文」だ。無限の可能性を持った、真っ白な紙に、自分の書きたいことを、自由に書く。じつくりと、長い時間をかけて、伝えたいことを、一つ一つ、ていねいに記す。そんな時間が、私にとっては、宝物のように大切だった。

私が作文を好きになったのは、五年生のころだ。毎週、原稿用紙一枚から二枚程度の作文を書く、という宿題が出ていた。最初は、何をどのよう書けば良いのか分からず、何だかもどかしかった。しかし、書き続けていくと、自分の気持ちを文で表現できるようになり、楽しくなってきた。たくさんあったはずのマスが、どんどんうまっていくことに

おかあさんおこらないで

●香岐小学校1年

クワナガ
鎌永 真之

ぼくがいまむちゆうになっているのは、おりがみです。いままでつくったなかでいちばんきにいつてるのは、いちまいのおりがみでつくる『にひきもぐら』です。さいしよに、できあがりのかたちをおもいうかべて、かんがえながらおりました。おりがみのうらのしろで、めをつくるのにくろうしました。おもっていたとおりにできたのがうれしくて、すぐにおとうさんにみせたくまりました。うれしくてたくさんさわっていたら、ちぎれてしまって、かなしくてすぐなみだがでました。でも、かえってきたおとうさんにみせると「すごいね！こんなのおてほんがあったっておとうさんにはつくれないやあ！」とびつくりしていたので、またうれしくなりました。ぼくのさくひんたちは、すぐにダンボールばこいっぱい

勝てた達成感なのかそれともまた違う達成感なのかは分かりません。この達成感を得られることができたら私は三年間頑張つて良かったと思えます。今年の夏。先輩方の姿はともかっこよかったです。先輩方は最後、達成感に満たさ

れているように見えました。それだけ試合で出しつくせたということだと思います。市大会の団体戦では東区の一体感がとてもすごかったです。他校ながら東区のチームが残っていたので一生懸命応援しました。

これは「良いライバル関係だ。」とコーチが言っていました。私も本当にそう思いました。普段はライバルでもしっかりと応援し合えるということは良いことです。私たちの代でも良いことは受けついで行きたいです。私たちも応援されるような人になりたいです。今、私に足りていないことを常に把握して来年の中学生連

までの残された時間をゆういぎにするために頑張りたいです。最後の達成感のために。

私のバレエ愛

●和白丘中学校1年

イガハラ
荊原 なつき

「一、二、三、四。音数を数えて!! はい、ルルベから、パッセ、五番。」

先生のかけ声、足で感じるリノリウムの感触。私は毎週金曜日にバレエのレッスンを受けている。中学校に上がってから始めたバレエ。小学五年生からずっとやっていたバレエ。二年間、独学で学んだバレエ。今はバレエが習えて幸せだ。

五年生、仲良しの友達とあるマンガ本にはまった。お母さんが子どもの三姉妹の日常を書いた本で、三姉妹がバレエをやっていたことがきっかけだった。私の方から、バレエって面白そう!と思い、母にやりたいと伝えるとあっさり断られた。私も、まだそこまで本気じゃなかったのだから。「ええ。」と少し不満に思っただけで、深くははまらなかった。

ある日、私はバレエについて調べていた。すると、バレエはただ美しい、かわいい、と言うだけではなく、その奥に厳しいレッスンがあること

りしてしまうのだろうと思います。

だから私は、将来、動物に関わる仕事につきたいと思います。例えば、獣医師になつてけがや病気で苦しんでいる動物を助けたり、飼育員になつてお世話をしてみたいです。または、動物愛護の職員になつてみたいです。新しい飼い主に渡す時に動物の育て方をしっかりと伝えて、動物たちが幸せになれるように、橋渡しをしたいです。そして、動物たちの役に立っていきたいです。

私の好きなこと

●香椎第三中学校2年

コガ
古賀 璃音

夢中になつていいるスポーツはソフトテニスです。私はソフトテニス部に所属しています。ソフトテニスは二人組のペアで戦います。そのため、一人が頑張つていても、もう一人があきらめてしまつては勝てません。そして、試合を多く経験することで自分に不

のおばあちゃんです。かよつていいる動物病院の中でも一番のおばあちゃん犬です。今は、もう歩けなくなつたけど、一緒に沢山のところに行きます。一緒に出かける事が大好きな理由が三つあります。

一つ目は、出かけると色々な人達に声をかけられる事です。一緒にいると、

「かわいいね。」

とたくさん言われて、多くの人達があつまってきます。ぼくは、それを見てうれしくなつて元氣になります。ぼくだけでなく、もぐやぼくの家族、まわりの人達が元氣になり、笑顔になります。

二つ目は、もぐと出かけるたくさんの思い出ができる事です。もぐは、ぼくがうまれた時から一緒にいるので、思い出もたくさんあります。ぼくが赤ちゃんの時には、ぼくが泣くともぐが近づいて、ぼくの頭のところをくんくんしていたとお母さんが言っていました。それは、いつももぐと一緒にいたという事です。今まで、ペットと一緒にいれる温泉、レストラン、店、ゆうえん地、ホテルやコテージ、海や川、動物園などに一緒に車で行きました。犬も一緒にいれる場所をさがして行きま

世の中には、人間の影響で苦しんでいる動物がたくさんいます。犬や猫などは人間に捨てられて、殺処分されてしまつたり、北極熊は、人間が地球温暖化を進めた影響で、氷がとけ、住む場所がなくなつてきたりしています。

私は小学生の時に、動物愛護センターに行きました。そこには、たくさん犬や猫がいて、私はダニーというとてもやさしい犬のお世話をしました。ダニーという名前の由来は見つけられた時に、体にダニがたくさんついていたらだということを知りました。ダニーは今はずぐに人に近寄つて来てくれるけれど、発見された当時は、人間が、怖くておびえていたのだらうと思ひました。私がダニーに、ごはんをあげている時に、となりの大きな柵の中に、黒い犬がいました。その犬は、私に向かつて吠えてきました。それを見て私は、まだ人間への恐怖心が残つていいるのだらうと思ひました。だから、強暴なのら犬やのら猫も、本当は、やさしい心をもつていいるはずなのに、捨てられたり、ぎやくたいを受けたりして、人間に対しての恐怖心が強くなり、かみついたり、吠えた

ぼくの大好きな事

●箱崎小学校4年

マサカズ
長島 正和

ぼくの大好きな事は、ぼくがかつていいる犬のもぐと一緒に出かける事です。ぼくの犬は今年で十九才になりました。人間でいうと、百才以上

トウシューズのお許しをもらえた。

まずトウシューズは、つま先で立つことのできるくつのことで、ふつうは二年〜六年ほどレッスンした上ではいいも良いと言われるときいていたので、私はうれしくてうれしくて信じられなかった。九月からトウシューズでのレッスンはじまる。

私は、好きなこと、大好きなことができて、本当にうれしい。

明日は、私のバレエ教室の発表会だ。私は出場しないが、見に行こうと思っている。そして、さらにバレエを好きになりたい。私は、バレエを愛しています!!

水泳

●長丘中学校2年

石井 日菜

私が得意なスポーツは水泳です。私は、四才の頃から水泳を始めました。水泳を習い始めたきっかけは、赤ちゃんの頃から全く水を怖がらず、お風呂やプールに入る事を楽しそうにしていたので、母が水泳を習わせたそうです。

私も、最初はバタフライと背泳ぎと平泳ぎと自由形が泳げるようになればいいなと思っていました。そんな時、大会に出場する事が出来る、選手コースがある事を知りました。私は、選手として大会に出場して、速く泳げるようになって、メダルを獲りたいと思ったので九才の時に選手コースに入りました。そして、日々の練習を一生懸命にこなしていき、少しずつ、自己ベストを出していきました。

しかし、十才の時に引越越しをすることが決まってしまいました。でも、幸いなことに、福岡市博多区から福岡市南区までの引越しでした。引越し先でも、水泳を続けていきたいと思い、近くのスイミングスクールの選手コー

ス入りました。すると見る見るうちに、速くなっていき、

いろいろな大会の、標準タイムを突破しました。その、たくさんの大会の一回一回に母や祖父母が応援に来てくれました。しかし、それまでに一度も金メダルを獲った事がありませんでした。

そんなある日、私のとても大好きな大好きな祖父がすごい臓がんになってしまいました。そして、医師から余命一ヶ月と言われてしまいました。私は、涙が止まりませんでした。そこで、私は心に決めました。絶対に次の大会で金メダルを獲って祖父の首にかける!!。私は、以前よりももっと一生懸命に練習をこなして、ストレッチも以前の3倍くらいしました。そして、ついに、大会の日がやってきました。飛び込む瞬間も頭の中は祖父の事でいっぱいでした。その結果、個人では決勝で敗れてしまいましたが、リレーで人生初の金メダルを獲る事が出来ました。私は誰よりも先に、祖父に電話で報告しました。とても喜んでくれました。私は、金メダルを獲れた事もうれしかったのですが、やっぱり祖父があんなに喜んでくれた事が何よりもう

れしかったです。そして、その大会の帰りに祖父の所に会いに行きました。そして、祖父に金メダルをかけてあげました。とてもまぶしく見えました。私と一緒に写真も撮りました。あの時の事は、一生忘れません。私は、この時初めて水泳を続けていてよかったなと思いました。

この水泳を九年間続けてこられたのは、コーチや母や祖父やいろいろな方々の協力があつたからこそ続けてこられたのだと思います。本当にとても感謝しています。これからも、感謝を忘れずに生きていきたいです。

大好きなこと

●青葉中学校2年

浦川 凜

没頭できる何か。それが「大好きなこと」だと思い込んでいました。私には、そういうものがありません。それで頭を抱えてしまい、難しい、そう思いました。でも、私たちが好きという感情を抱くの

は、そのことに対して嬉しきや楽しき、幸福を感じたときです。それがたとえ趣味にならないものでも、いいと思います。だから、私は一緒にいると幸せな気持ちになれる人のことを書きます。

私には、小さい妹がいます。まだ小学校一年生です。名前は、花音といいます。花音は私が今の花音とちょうど同じ歳の時に生まれました。当時の記憶はほとんどないので、病院で生まれたばかりの花音を見て、姉になったことを実感して少しドキドキしたことを覚えています。花音はわがままな所もありますが、実は優しいです。お菓子をかう時は、必ず私の分も選んでくれます。誕生日には、イラスト入りのメッセージカードをかいてくれます。やめてほしいことは、何でも私の真似をすること。好きな色、歌手、食べ物、女優。全部一緒です。でも、私はそんな妹と過ごす時間が大好きです。理由は、妹と一緒にいると楽しいし、幸せになります。また、その日にあつた嫌なことも妹を抱き締めるだけですべて飛んでいきます。妹の力は本当にすごい。いつも思うことです。

昔の私は、「お姉ちゃんか、

お兄ちゃんが欲しかったな」と考えることが多かったのですが、それは妹が小さくて親がそっちにばかり手を焼いていて、焼きもちを焼いていたからだと思います。年は離れていても、もちろん喧嘩もします。でも妹が泣くと怒られるのはいつも私。それで、「花音ばかりずるい。」と何度も思いました。しかし、今は妹がいてくれて良かったと思う方が多いです。一人っ子生活を七年間体験しているのもあってか、一人が寂しいということは分かっています。だから、中学校一年生の時の自然教室では夜に妹のことを思い出して少し泣きそうになりました。妹の存在は大きいと感じました。

私の大好きなことは、妹と過ごすことです。「何をする」とかではなくて、ただ一緒にいることができるなら何でもいいのです。この何気ない日常を、過ごしていると感じる事が好きです。時々、喧嘩をしてつい「大嫌い!」と口に出してしまうこともあるけれど、本当は大好きです。こんなこと、普段では絶対に言えません。この作文を通して、私の気持ちが少しでも伝わったらいいな、と思います。い

RKB毎日放送賞

●箱崎小学校4年

鷹巢 瑛斗

ぼくがそろばんに出会ったのは、6才の時でした。おばあちゃんのうちで、いっっぱい玉がついた板を見つけました。「これはなあに?」とおばあちゃんに聞いたら、

「これはそろばんだよ。」と教えてくれました。そして親指と人差し指を使ってばちばちとそろばんをはじいてくれました。とてもいい音だなと思いました。おばあちゃんもひいおばあちゃんも銀行員で、そろばんを使って仕事をしていたそうです。すごいな

あと思いました。

ぼくもそろばんが上手になりました。教室に通う事になりました。おばあちゃんのそろばんをもらいました。ばちばちとぼくもはじいてみたけど、いい音がでませんでした。でもふつてみるとシヤカシヤカといい音が出ました。習いはじめたころは、とても計算がかん単でどんどん進むことができました。けれど、くり上がりの計算ではじめてつまづきました。その理由は、

頭の中で計算ができなくて手を使っていました。けれど、たくさん練習をしていくと、頭の中でそろばんの玉を想像うができるようになりました。すると計算が早くなつて、問題をとけるのが、うれしくなりました。そろばんが大好きになりました。

二年生になった時に、先生に大会に出ないかと言われました。ぼくは出たいと思いました。団体戦と個人戦と両方に出ました。初めての大会では見取り算で失敗してしまい、くやしくて涙が出ました。けれどそれから一年間、一生けん命に練習をしました。一しよにがんばる友だちもふえて、練習も楽しくなりました。そして二度目の大会では、見

取り、かけ算、わり算、全部満点を取ることができ、満点賞をもらいました。がんばった結果が出せてうれしかったです。そしてますます、そろばんが大好きになりました。

ぼくは、おとし天国にいつてしまった、ひいおばあちゃんとそろばんの勝負をするのも好きでした。最初、ぼくは一けたの計算をゆつくりしかでなくて負けていたけど、だんだん早く計算できる様になって、ひいおばあちゃんにも勝てる様になりました。ぼくが勝つと、ひいおばあちゃんがうれしそうにわらっていました。ぼくもわらいました。

次の目標は、そろばん検定一級を取る事です。ぼくも今では、ばちばちといい音が出るようになります。これからも練習をがんばりたいと思います。

●赤坂小学校6年

野村 悠

ぼくには二歳はなれた兄がいます。ぼくは兄のことが大好きです。その理由はおもしろいからです。いつも冗談を言ったり、おもしろい顔をしてぼくを笑わせてくれます。

それから、やさしいところも好きです。勉強の分からないところをとでも分かりやすく教えてくれます。カードやおもちやを時々くれたりもします。そんな時、ぼくは兄がいて良かったなあとと思っています。兄が失敗した時や、父や母に怒られた時は、助けてあげたい気持ちになります。

けれど、兄の嫌いなところもあります。それは、乱暴なところ。時々、たたいてきたり、ぼくがいやがるあだ名をつけて笑ったりします。しつこくそれをやってくる時には、

「どうしてこんな兄がいるのだろう。」

と、思います。くやしいのでぼくもたたきかえます。兄はサルみたいにいるさいので、「サル、サル。」

と言いかえしたりもします。

すると、けんかになります。ひどいたたきあいになって、母に、「やめなさい。」とどなられます。とてもいやな気持ちになります。だけど、いつも自然になかなおりしています。そして、けんかのはより仲良くなると思います。

うれしくなってしまう。そのきっかけは、小学校のときに、算数の「速さ」を友達に聞かれたことだった。私も正直、「速さ」の単元はあまり得意ではなかった。だが、私なりに分かることを、一生懸命に教えた。すると、友達から「すごく分かりやすかった。ありがとう。」と言ってもらえた。本当に気持ちが良かったことを今でも覚えている。

●春吉中学校1年

教える

伊藤 美咲

「人に物事を教える」というと、上から目線でおこがましい気がする。私は知識が豊富ではないし、成績が飛び抜けて、いいわけでもない。まして、立派な人間でもない。けれども、分らないところがあつて、困っている人に対して、自分が分かる範囲のことを、一生懸命教えた結果、「分かった」といつて喜んでくれる表情を見ると、自分も

将来の夢は、「塾の先生」になった。「合格」という、目に見える目標に対して、結果を出していく、塾の先生という職業に、私は、魅力を感じている。

夢を実現していくには、いろいろな経験をしなければならぬと思う。特に、私自身が分からなかったことに対して、こくふくする経験が、一番必要だと思う。分からない人の気持ちや考え方が理解で

きないと、いくら一生懸命教えても、相手には伝わらない。国語の問題を、他の友達に教えていたときに、「読むと分かる問題なのにどうして分からないのだろうか。」

教えることには責任がともなう。間違えたことを教えてしまつたと、教わつた方は、その間違いをそのまま正しいことだと信じてしまふ。何かのきっかけで正しく理解し直せるならまだいいと思う。だがそのきっかけがなかったら、その人はその小さな間違つたことを信じ、残りの人生を生きていく。しかも、その知識を教えてしまつたのは自分である。そのようなことは絶対にしたくない。

これから経験していくことは全て誰かに教えていけることだという意識で、日々の生活を一生懸命生きていきたい。

学校で測る五十メートル走。早く走れない私にはとても嫌な時間です。持久走などの長距離は短い距離のタイムよりは良い記録がだせ、まわりからも羨ましがられます。しかし、私にとつてまわりの声は、ただのプレッシャーにしかありません。「九年間運動しているから体力があつて当たり前」確かに、その通りかもしれませんが、一生懸命走らない人が良い記録をとれることはないと思つています。私は、毎回良い記録をとれるようにがんばっているのに、走り終わり安心した時に息ができなくなり過呼吸になるくらい必死なのに、当たり前のように言われることがとても辛いです。これは、バレーでも同じです。小学校の頃はあまり試合に出れませんでした。バレーボールの楽しさをわからないまま中学校でバレー部に入ったため、毎日のきつい練習がきらいでした。家に帰り、お母さんからきかれることはいつもバレーのことです。これが嫌で自分の気持ち伝える前に会話を避けてしまひます。

しかし、今は、受験の年です。自分の行きたい高校、やりたい事を人に話さなければ

笑つた顔を見るために

●長丘中学校2年

佐藤 夢乃

「お母さん」涙が頬をつたつてだばだばとどまることなく、流れ落ちていく。こんなに泣いたのは、いつ以来だろうか。今思い出しても泣けてくるあの一言が、いつもはクールな私をここまで感情的にさせたのだ。そう、それは今から三十分ほど前のこと。

六月二十一と二十二は一学期の定期考査の日だった。私は前回の学年末考査のときより一点でも点が上がるよう、期末休みというテスト勉強のための部活動休部期間が始まる、一週間ほど前から勉強をすることにしていた。しかし、

期末休みに入る一週間前などは普通に朝練夕練共にあるため、部活動の中でも特にいそがしい吹奏楽部に所属している私にとつて、この日々は苦痛そのものであつた。毎日、朝は七時二十分から夕方は七時十五分まであり、まるで学校にいる時間は一日の半分かじやないかと思うぐらいで、それから家に帰り、お風呂と夕食を済ませてさあ、勉強だとシャーペンを手にとれば、

大好きな歌を逃げ場にするのではなく、勇氣に変えやつと気づいた自分のやりたいことが叶えられるように、がんばります。

NEC賞

君が大好きな事

●小笹小学校3年

犬童 康介

ペットボトル、トイレットペーパーのしん、ダンボール、プラスチックみんなはガラタと言う物が、ぼくにはとてもひつような物です。すててしまひそんな物をぼくはのこしておくようにしています。

なぜなら、ぼくは工作が大好きだからです。みんながいらないと思う物を使つていろいろな物を作るのがとくいです。

ぼくの工作で一番すごい作品は本物のイカダです。ペットボトル40本いじよう使つて糸でまいて作りましだ。こ

もう夜の十時すぎだし。でも明日も六時起きだから、遅くても十一時には寝ないといけない。こんな日が何日も続く。だけど定期考査は、あと二週間もせずにはやつて来るのだ。繰り返される先輩後輩たちとの上下関係、どんなに難しくなつていく勉強、夏休みになつたら始まるコンクールに向けてのきつい練習。

それでも、毎日家を出る前と帰つてきた後すぐ、欠かさずやつている事がある。それは、大好きなお母さんに抱きつくことだ。あの温もりだけは私の一日のエネルギーの源といつても過言ではないくらいである。その日にあつた嫌なことを全て忘れさせてくれるのだ。

そんなある日。私は昨日、先輩に怒られ勉強も苦手な数学と理科に頭を悩ませ、もうあと二日で定期考査というときにあわあわ混乱して、どうしようこのままじゃ前よりも点が下がるかも、と精神的にまいつていた日の朝、いつものように靴を玄関で履いて、お母さんに抱きついて一言私が「お母さん、私もうテストの点数が今回かなり下がるかもしれない。」といった後母が私の背中をトントンとまるで

れはなかなか作るのがたいへんだつたので、おじいちゃん と作りましだ。

このイカダはぼくがのる事ができます。おじいちゃんと川でなんども乗りました。ぼくのイカダを見た人たちに「トムソーヤみたい。」

と言われて、ぼくはみんながイカダを見てくれているのがとてもうれしくて、これくらいすごい物をまた作りたいと思ひましだ。

それでぼくは自分で發明して大型ロボツトを作りましだ。名前はポチといひます。ポチは、紙箱、プラスチック、使わなくなつたおもちゃの電動タイヤ、スピーカーを使つて作りましだ。

はじめにプラスチックのふたを電動タイヤにくつつけてとめましだ。次に紙箱を体にくつつけて口にスピーカーをつけます。これでできあがりです。電動タイヤとスピーカーを使つてゐるので、ポチはしゃべる事、走る事ができます、友だちにみせたら、「どうなつてゐるの。」

「友だちに写真をとつて見せよう。」

と言つてくれました。ぼくはすごくすくうれしかつたです。イカダより一人で作つた

大好きな憧れの人

●青葉中学校3年

福本 美咲

「歌」これが私の好きなものです。

小学校一年生の頃からバレーボールをしています。正直、運動はとても苦手です。

小さな子供をあやすかのようにながら「大丈夫、大丈夫。夢が頑張つて努力していることはしつとるよ」どうしよう。目に涙が浮かんできたかも。しかし、次の言葉を聞いた瞬間涙があふれてそうになつた。「夢はお母さんの自慢の娘よ」お母さんの前で涙を見せぬように急いで「行つて来ます」とだけ言つて、その場を去つた。良かつた今日は雨だつた。私は傘の中でひたすら泣いた。もう、家に帰つてお母さんに会いたいという気持ちしかなかつた。でも、足は学校の方に進んでいる。ありがとう、お母さん。今日も私らしく頑張つてみる。そしてまた笑顔で帰つて来るね。お母さんの笑つた顔を見るために。

私の好きなもの

●和白丘中学校2年

菊池 涼風

落語。それは私が想い描く将来の夢であり、これからも変わらず好きであるだろう日本の独自の文化である。

私がまず落語に出会ったのは、小学三年生の夏休みだった。母が仕事を始め、兄も中学で部活に入り、一人ですつと家にいるよりは、と思つて学童保育に夏休みの間だけ入ったときのことだった。先生が

「九大の『オチケン』の人が来ますよ。」

と言った。私は『オチケン』がなにか、分かつていなくて、着物姿の九大生が入ってきたときは、ひどく驚いたのだ。そして噺が始まった。私は劇か何かかと思ひ、

「ほら、こつちへおいで。」

と手招きしているのをみて振り返つて後ろを見た。しかし誰もいない。なのにまるで誰かいるように話している。途中で一人でたくさん役を演じていることに気がついた。私は「何を見て話をしているのだろう。」と、思ったが、何も見らずにスラスラと話し

はげましてもらつたのに自分の目の前にいる人すらはげませない。そんなのおかしいと思ひ絶対にはげまそうと決めた。まず思いついた言葉は「大丈夫？」だった。

「大丈夫？」
と聞くと、
「うん、大丈夫!!」

と言った。でも全然大丈夫ではなかった。泣きそうになつていたからだ。大丈夫だと言ったのは私を心配させないように言つたのだろう。

それから私は考えた。私がしてもらつたようにボールをとつたり、なぐさめた。するとだんだん元気になつてきた。

その時大切な事に気づいた。私がみんなからしてもらつたようにみんなにも私がしないといけない。だつて大事な仲間だから。

コイイ、という感動と、どうして起きたのか、という好奇心が湧きます。自然災害でも感動と好奇心は湧きます。

僕は、このようにたくさん自然と触れあつてきて、思ったことは、自然はたくさん学べる、ということです。学べば、今後にも生かせるし、大切だと思いました。これからも大自然に触れていき、たくさん学びたいと思います。

NPO博多の風賞

きみが大好きなこと

●吉岐小学校3年

武田 穂乃花

わたしはパパとママが大好きです。

パパはわたしがこまつた時にいつもたすけてくれます。せが高いので、高い所にある物をとってくれたり、具合のわるい時や心細い時に心配してパパのベッドをかしてくれたりわたしがねるまでそばにいてくれます。

党です。かなり手強く、一度も対局で有利な場面をつくつたことがあります、同じ教室に通っている兄弟は兄がアマチュア1級。弟がアマチュア4級で、兄は先生に勝ったこともあります。こつちは弟に一回勝ったきりです。でも、いつかはこの兄弟と先生をたおして、プロになりたいと思つています。ぼくがなぜプロになりたいかという、自分の好きなことで、職業につけるとというのが一番楽しいだろうと考えているからです。

だから僕は今、できる限りの事をやつて様々な困難にも立ち向かえるようになって、みんなに認められるような棋士になりたいです。

大事な仲間

●香椎小学校6年

与古光 凜

痛い、悔しい、きつい、怖い、でもそんなバレーボールが私は好き。私は習い事でバレーボールをしている。習い始めた頃はボールが少しあつたくらいで痛いからやめたいと

の私の最終目標だ。
好きなものは落語。今までも、これからも、それは変わらない。

大自然に触れる

●青葉中学校3年

久保 飛勇吾

僕の好きなことは、大自然を見ること、触れることです。家族で旅行に行く時、良く自然にありふれた場所に行きます。例えば、この前、熊本に行つたとき、滝がある所に行きました。その時、滝のまわりは自然がいっぱいで、たくさん鳥の音が聞こえてきました。緑をつくりあげた自然にとても感動しました。他にも、川に行つたときも、狭い

川が自然にできた堀の上には、たくさん木や動物たちがいました。川も太陽に照らされてダイヤモンドのように輝いていて、自然が創る宝石箱やあ、と思いました。自然は感動だけではなく好奇心も湧かせてくれます。

人々を魅了させる自然には、どのような力があるので

ポチをほめてもらえたのがうれしかったです。

これからもらえない物をすてないでとつておいたり、めずらしい物を集めたりしてたくさん発明をしているいろいろな物を作りたいです。ぼくはやつぱり工作が大好きです。

ぼくが大好きなこと

●高取小学校5年

岡本 朔太郎

ぼくが大好きなことは、将棋です。

ぼくが将棋に出会ったのは、一年生の時でした。上級生に負けたのがとてもくやしくて、勝ちたいと思つたのが将棋を好きになったきっかけです。将棋は、相手の玉(王)を動けなくしたら、勝ちという頭脳ゲームで、ルーツは、インドの「チャトランガ」という、ゲームです。将棋にも、プロがあつて、トップの人たちは、「竜王」や「名人」と呼ばれます。

ぼくは、今将棋の教室に通っています。先生はアマチュア四段の本格的な振飛車

でることに気付いて、私は瞳れた。噺を覚え、声や演技で人の特徴をつけ、人を笑わせる仕事。その日から、「落語」「落語家」「落研」という言葉を忘れることが出来なくなつた。

家でその話をする、兄が、小学五年生の時の「落語ノート」という物をくれた。担任の先生が落語好きで、音読の宿題で使つていた物らしい。私は、実は落語と知らないまま噺を覚えていたのだ。そして母が扇子をくれた。それから落語を口に出して仕草をつけて人前のできるようになる努力をした。

そして小三の冬、お楽しみ会で落語を初めて人前でやつた。「初天神」という自分の好きな噺。みんな笑ってくれた。それがとても嬉しかった。「またやつてね。おもしろかったけん。」

「あめをなめる仕草、すつこいリアル。」
と、たくさんの方がほめてくれた。中には、
「落語のしかた、教えて。」
という人もいて、驚かされた。

その日ははつきりと自分の夢が定められた日だと思う。大好きな落語を世界中の人に知ってもらいたい。それが今

ぼくの大切な物

●博多小学校5年

和久井 宙ワクイ ソラ

ぼくは水泳が大好きです。ぼくはなぜ水泳を始めたかという、二さいの時にほねが悪く、とんだり、おもいつきり走ったりするのはだめといわれて、ゆいいつでできるスポーツは水泳といわれ、お兄ちゃんも水泳をしていたから三さいから水泳を始めました。

そしてそれから、どんどん練習をしたりして一つ一つ級が上がり準選手になりました。準選手になると大会に少し出れるようになり、ベストタイムも出せるようになりました。

大会に出るときは一種目、一種目きんちようします。それでもベストタイムが出たいからがんばります。四年生から五年生の間は、九州大会などにも出て、うれしかったです。

だけど、ぼくは四年生の四月に、あそんでいて足を骨折して、水泳が約二ヶ月間できなくなりました。でも、足は治って水泳に復帰できました。けどまだ完ぺきには治っ

てはいなくて、それをしらず、

治ったといわれたから走ったりしてたら、検査の日に骨がつぶれているといわれて水泳もプールに入るまで歩くからダメといわれて、大好きな水泳もできなくなりました。それでもしかしたら手術かもしいわれて、また別の日に検査して、

「これはもつとつぶれているから、手術だね。」

といわれて、「えーなんで、いやだな。」と思いました。

そして七月四日入院して、次の日手術だからドキドキしました。

手術当日朝から何も食べられなくて、それから手術の洋服に着がえて車イスで手術室に行きました。とっても色々な事を考えました。

手術は無事終わりました。

手術から一週間の間はいたかったです。それでどんどん日にちは経っていき、それにもなつて水泳がしたいという気持ちも強くなりました。いつもはふつうにしている生活やプールが、どれだけ大切かが分かりました。

今はもう元気で退院も決まっで、早くふつうの生活にもどって、水泳がしたいとい

う気持ちでいっぱいです。

改めて水泳や今まで通りの生活が早くしたく、楽しみで仕方ありません。

弟もお兄ちゃんも水泳をしていてお兄ちゃんは一つ上のクラスで弟は一つ下のクラスだけど弟はぼくと同じクラスのタイムをだせたから、上がってくるので負けないように死ぬ気でがんばりたいと思います。

早く足を治して水泳に復帰して、いいタイムをだしたいです。

私の好きなこと

●鳥飼小学校6年

山本 結月ヤマモト ユツキ

私の好きなことは、「楽文を書くこと」です。

ほぼ毎年書いていて、夏の行事の一つになっています。今思えば、楽文って難しくないし、気楽にかけるとって、思ったことなんでもかけるとって、もいい作文だと思います。

私の宝

●青葉中学校2年

原田 駿太朗ハラダ シュンタロウ

「アアー」「ついにやってきました。全国高校野球記念すべき百回大会。」今はまさに、甲子園真つ最中。そう、私の宝というのは野球のことです。

私が野球というスポーツに出合ったのは、二歳のころです。私は野球が大好きになりました。父が家にいるならば、父と二人で公園へ行き、野球をしてよく遊びました。

そして私は、小学一年の九月一日に、ソフトボールのクラブチームに入部しました。私のような、野球の大好きな先輩方がとても可愛がつてくださいました。なんと私は、一年なのにセカンドとして試合に出ました。練習はともきつかったです。中でも一番大変なのは、ノックです。愛情のこもった、厳しいノックでした。そんなこんなで学年を上げ最後の年、六年生になりました。六年では、主将を任されました。ここで初めて、全員をまとめる大変さを実感しました。

小学校生活を無事終えた私は、やっと中学生になりました。

私の心の支え

●香椎第三中学校2年

斎藤 芽生サイトウ メイ

私は絵を描くことが大好きです。絵を描く人に対して、根暗、地味などと言っている人達がいいますが、私はそうは思いません。絵を描くことは素敵だと思います。絵を描くことによつて人々に感動や幸せをあたえることができるからです。例えば、漫画を描いている人は私たちに楽しみをあたえてくれます。画家の人も私たちに感動をあたえてくれます。このように、私たちを絵で幸せな気持ちにしてくれます。私はそんな絵が大好きです。

私が絵を描き始めた理由は三つあります。一つ目は自分の好きな世界が描けるからです。私が絵を描き始めたのは、小学校低学年頃からです。お姫様や人魚姫、空を飛んだり、魔法を使ったりしている、私たちの世界ではありえないことを描いていました。自分の憧れや好きな世界を描くことはとても楽しいです。二つ目は自分の感情や気持ちを絵に表すことができるからです。例えば、うれしかったことが

あれば、満面の笑みの子を描くと、うれしさが表現できま

す。私は友達とけんかをしてしまったとき、仲直りをしたけれど、勇気がでなかったことがありました。どうすればいいか困ったとき、私と友達が手をつないで、楽しそうに笑っている絵を描きました。すると、また一緒におしゃべりをしたり、一緒に遊んだりしたいなと強く思いました。そのおかげで、あやまる

「将来漫画家になれるね。」こんなにはめられてもらったことがなかったのですごくうれしかったです。絵を描くことが、私の唯一の得意なこととなりました。絵を描いてて

「アアー」「ついにやってきました。全国高校野球記念す

べき百回大会。」今はまさに、甲子園真つ最中。そう、私の宝というのは野球のことです。

私が野球というスポーツに出合ったのは、二歳のころです。私は野球が大好きになりました。父が家にいるならば、父と二人で公園へ行き、野球をしてよく遊びました。

そして私は、小学一年の九月一日に、ソフトボールのク

ラブチームに入部しました。私のような、野球の大好きな先輩方がとても可愛がつてくださいました。なんと私は、一年なのにセカンドとして試合に出ました。練習はともきつかったです。中でも一番大変なのは、ノックです。愛情のこもった、厳しいノック

でした。そんなこんなで学年を上げ最後の年、六年生になりました。六年では、主将を任されました。ここで初めて、

た。中学生では、人生初めての「決断」をしなければなりません。それは、軟式の部活・硬式のクラブチームどちらにするかです。そして私は、硬式のクラブチームを選びました。その理由は、レベルの高い所でやりたいのと、いろんな人と野球をしたかったからです。クラブチームというのは、選手・監督・コーチだれも知りません。そんな中やっていかなんといけないということ。それは、コミュニケーションをしつかりと、とらないといけないということ。そんなとき困らないためでもありました。もう、少しずつ代が代ろうとしています。一・二年の部員は少なく、心配ではありますが、少ないなら少ないなりの特長もあると思うので、それらをいかしてがんばっていきたいと思います。

私は野球を選んでよかったと思います。礼儀・あいさつ・上下関係をしっかりと教えていただけで、社会に出たときに困らないと思います。父も母も全力で応援してくれるので、期待にこたえられるようにこれからもがんばります。ここまで本気でやれるなんて、やっぱり私の宝物です。